

授業科目 スポーツ障害理学療法学

【担当教員名】 亀尾 徹		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【概要・一般目標：G10】 1. 広範におよぶ応用医学であるスポーツ医学の概念を認識し、プロスポーツ選手、一般競技スポーツ選手、スポーツ愛好家などに対する理学療法の役割を認知し、評価、治療、管理、予防などについて理解を深める。 2. 成長期、高齢者、女性などの特定の運動グループに対する配慮について学習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1. スポーツ医学の概要を踏まえ、理学療法および理学療法士の存在意義を説明できる。 2. 理学療法における禁忌および注意事項を抽出し、予後を同定し、個人に見合った評価・治療を計画できる。 3. 代表的なスポーツ障害・外傷の病理とクリニカルパターンについて説明でき、評価・治療を選択できる。 4. スポーツ障害・外傷のリハビリテーションに特有なトレーニング方法について説明できる。 5. スポーツ障害・外傷のリハビリテーションおよび障害予防に用いる補装具およびテーピングについて説明し、実践できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	スポーツ医学およびスポーツ障害・外傷の理学療法総論 一般的医学モデルとスポーツ医学モデルの差とクリニカルリーズニングについて			1 2	講義 講義
2	スポーツ障害・外傷に対する理学療法に特有のトレーニング スポーツ障害・外傷に対する理学療法の代表的な治療過程			4 3	講義 講義
3	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 腰部骨盤帯・股関節（1）			2～4	講義
	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 腰部骨盤帯・股関節（2）			2～4	講義
4	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 膝関節（1）			2～4	講義
	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 膝関節（2）			2～4	講義
5	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 肩複合体（1）			2～4	講義
	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 肩複合体（2）			2～4	講義
6	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 足部			2～4	講義
	部位別スポーツ障害・外傷の理学療法 肘関節			2～4	講義
7	スポーツ障害・外傷に対する補装具およびテーピング（1）			5	講義
	スポーツ障害・外傷に対する補装具およびテーピング（2）			5	講義
8	まとめ			1～5	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		Clinical Sports Medicine 3版	Brukner 他	McGraw Hill	2006
その他の資料		配付資料			
【評価方法】 授業態度、定期試験			【履修上の留意点】		